

平成 25 年度第 2 回葉山町総合計画審議会 議事録

日 時 平成 25 年 12 月 20 日 (金) 13 時 30 分 ~ 16 時

開催場所 葉山町役場庁舎内 協議会室 1

出席者 **委員**

(出席) 臼井会長、田辺職務代理、浦上委員、北村委員、高梨委員、福本委員
福安委員、藤井委員、宮内委員

(欠席) 鹿嶋委員、近藤委員

事務局

上妻総務部長、伊藤企画調整課長、和嶋副主幹、新倉副主幹、(株)ぎょうせい

議事日程 1 会長あいさつ

2 委員の交代

3 議題

(1) 人口推計について

(2) 「第四次葉山町総合計画」策定に向けたアンケート調査集計結果報告について

(3) 「町民ワーキンググループ活動報告書」及び「町民アンケート調査集計結果」
から見える第四次葉山町総合計画におけるまちづくり体系(方向性)につ
いて

4 閉会

配布資料

資料 1 葉山町総合計画審議会委員名簿

資料 2 第四次葉山町総合計画策定にかかる人口推計(暫定版)

資料 2-2 年齢別・性別 転入・転出者数

資料 3 総合計画策定までのスケジュール(修正版)

資料 4 「町民ワーキンググループ活動報告書」及び「町民アンケート調査集計結果」
から見える第四次葉山町総合計画におけるまちづくりの体系(方向性)について

参考資料 第三次総合計画後期基本計画「主要施策」振り返り調査票

冊子 「第四次葉山町総合計画」策定に向けたアンケート調査集計結果報告書

(会長あいさつ)

第2回葉山町総合計画審議会を始めたいと思います。今日の会議の後半はフリーディスカッションに近い形でご意見をいろいろ出していただきたいと思います。多分、最も制約のないフリーディスカッションができるとしますのでよろしくお願いいたします。

(事務局より資料の確認)

配布資料の確認を行った。

(事務局より審議会委員の交代及び欠席委員の報告)

第1回審議会には、町子ども・子育て会議から選出されていた横田委員は、主任児童委員として子ども・子育て会議にご参加いただいておりますが、11月30日付で主任児童委員を任期満了に伴い退職されました。このことに伴い、子ども・子育て会議の主任児童委員として新たに12月1日より鹿嶋千尋様が選任されたので、当審議会委員を交代していただくことになりました。

鹿嶋委員は、本日も都合がつかずに欠席ですが、第2回審議会開催前に事務局の方から総合計画の説明、第1回審議会の内容等をご説明させていただきました。

また、近藤委員につきましても、神奈川県議会と日程重複のため本日は欠席です。なお、近藤委員へも、本日の審議会終了後に、皆様のご意見をお伝えしたいと思います。

(会議の成立について)

事務局 本日の審議会は委員11名中9名の委員がご出席いただいておりますので、総合計画審議会規則第5条第2項により会が成立していることをご報告させていただきます。

(傍聴について)

事務局 前回審議会において当審議会の傍聴を受け付けることにしましたので、事務局において傍聴者募集を町ホームページで行ったところ2名の傍聴希望があり、本日入室していただいております。

議題(1) 人口推計について

事務局より資料2、資料2-2に基づき説明が行われた。

(質疑応答)

委員 平成40年までで2,400人以上、人口が減少するであろうとのことですが、これは、全国的なトレンドと比較して多いものなのでしょうか。

事務局 比較的緩やかであると思います。横須賀市については、かなり急激な割合で人口減少が進んでおり、横須賀市の担当者に話を伺ったところ、外部からの流入人口というのはほとんど認められないとのことでした。横須賀市は、山あいの谷戸みたいな地区がかなり多く、そこにお住まいの高齢者がより便利なところ、例えば平成町とかの一角の段差のないマンションに移り住んで、買い物も便利で交通アクセスも比較的良好的な所に移り住む。市内での人口の流動はあるけれども、外部からの人口流入というのはほとんどない、併せて、高齢化率が高くなってきて、自然減、亡くなる方が増えているので、人口は減少の一途をたどっているというような話でした。葉山町の人口の減り方は、今までが微増で推移してきた、ここに来て減少に転じてきておりますが、減り方のスピードというのは他所と比べると著しく速いものではないというように推察しています。

会長 少し補足させていただきます。数字をはっきり覚えていませんが、横須賀はピークに比べて1割弱ぐらい人口が減っていたかと思います。ピークを早く打っていて、今はもう41万人とか42万人の間ぐらいという状況であり、どこもいったん減り始めると減り方のペースは速いというのが通説。気を付けなければいけないのは、ピークを迎えるのが遅いと

ころほど、人口がいったん減り始めたときには減り方は速いというのが一般的ですが、もしかすると葉山はちょっと違う形になるかもしれません。都道府県単位でいうと、埼玉・神奈川あたりがまだ人口減少に入っていません。東京もそうかと思います。ところが、ここがいったん減少に入り始めると減っていくスピードは速いというように、一般的には言われているかと思います。

委員 将来人口推計をする中で、将来的な土地利用の状況とか再開発等による人口の増加というのも踏まえた形でやるというの、1つの方法だと思いますが、そこはどうでしょうか。

事務局 多分、葉山町の中をご覧いただくと、平地が少なく、山あいに住宅が張り付いているような状況で、海からすぐ山がせり上がっているのを見て取れると思いますが、葉山町は、大規模な開発となる斜面地マンションの建設を条例で規制しています。斜面地が多い葉山町にひな壇のようになった高層建築物が建たないような条例です。それから、ちょっと深刻化しているのが、空き家がだいぶ増えている、と。東京にお住まいなのか近隣にお住まいなのか分かりませんが、もともと葉山町の方はセカンドハウスみたいな形で建物を持っていて、かなりの頻度で週末を葉山で過ごしていた人が、高齢化に伴ってか、利用が少なくなってきている、と。人の手が入らなくて家もかなり傷んで、防犯上も良くないというような話が随分入ってきていると、また、詳しい調査はしておりませんが、戸建て規模の家を建てられる余裕は一色と長柄の地区にはまだまだ存在している状況のようです。ただ、大きい規模のマンションを建てるような大規模な土地になると、土地の面積が広い市街化調整区域の方でないとは大規模建築物というのは難しいと思うし、そこには市街化調整区域なので大きい建築物は建たないと思っております。そのため、何百世帯が入るような高層マンションはもう無理だろうなという状況です。

委員 今は、建ぺい率が40%とか容積率は200%とかで、はっきり言ったら、葉山は面積的には狭い。山が迫ってきたり、海と山なので、平地が少ないということなので。それを解決するには、結局、容積率と建ぺい率をある程度緩やかにする。40%なら非常に少ない建ぺい率だと思うので、せめて60%ぐらいにすれば商売がやりやすいし、要するに損益分岐点も非常に高まるということはあると思いますが、その辺はいかがお考えでしょうか。

事務局 所管が違って、詳しいことは分かりませんが、葉山町は、従前から煙突のない住宅の町を目指すということでずっと町政が運営されてきました。大きい敷地に小さい家を建てて、緑を豊かにしていくべきだというような話がありました。町の中でも、都市計画法上の地区計画で厳しい規制があるような状況です。建ぺい率・容積率を変えていくといっても、町の中だけでの判断というのはなかなかできないと思います。おっしゃるように、広い敷地、庭のあるお宅に住んでいたけれども、お年になって庭の手入れがなかなかできないとか、もうちょっと緩やかな建ぺい率・容積率だったら本当は2世帯住宅にしたいというようなものがあるかと思います。けれども、多分これは先の長い話になってきます。それでも葉山町のブランドイメージをなくさないために、ペンシルハウスみたいな狭い土地に目一杯の建物を建てるようなものは、おそらく葉山としては今後もそういうイメージで町をつくるという方向にはいかないのではないかなと思います。

会長 計画の中に今の議論をどう反映するかというのは、やり方が結構難しいところがあると

思います。多分、スタートラインの人口に関しては淡々と過去のトレンドを使って推計するしかないと思います。過去のトレンドを使って推計したものに対して何かの政策を打って、例えば、今お話があった容積率を変えるとか、あるいは開発についての規制をどうするかという議論はあり得るだろうけど、それは人口の推計に対して町の人々がどういう価値判断をするかにかかるわけで、そのときにそういう政策を要望するということになるかと思います。ただ、一般的には、総合計画の中の個別の事業として、例えば現行の条例をどうするのかという話にはならない。だから、この後のプロセスの中で方向性としてどう考えたらいいのかということで、またご議論いただければと思います。ある意味で政策的な変動要素を加味して先に推計するというのは、人口推計の手法からいって極めて難しい。一般的には「今までのトレンドを使って推計して、その推計で示されたものに対して、何をどう考え、どういう方向で町の政策を考えてもらうのか」ということをわれわれから提起させてもらうというやり方になるかと思います。

議題（２） 「第四次葉山町総合計画」策定に向けたアンケート調査集計結果報告について

「第四次葉山町総合計画」策定に向けたアンケート調査集計結果の報告について、事務局より冊子に基づき説明が行われた。

（質疑応答）

委員 回収率が44.9%だが、この数字はどのように評価していますか。

事務局 できれば50%を超えたいという思いはありました。例えば計画策定のために行うアンケートは、近隣の自治体では大体同じぐらいの数字で、50%にちょっと欠けるぐらいの49%とか、ちょっと多めになると50%を少し超えるというような状況がありますが、総じて言えば、今回の回収率はそこその数字かなと判断しています。

委員 確認の質問をさせていただきます。問3のお住まいの地区の比率は、実際の人口のパーセンテージと比べてどうでしょうか。

事務局 このグラフのとおりで、人口の比率としては、昨今増えてきている一色、堀内地区がやはり1番、2番でした。長柄地区は、大規模な開発地区が2つあり、そのうちの、イトーピア地区は、地区計画が入っているので、そこには新たな人口流入があまり認められないということもあります。ただ、県道の311号線、旧逗葉新道沿いの道が一般県道化されたことによって、徐々にそのエリアに住宅が増え、店舗も増えつつある状況であります。そのため、減り方としてはそんなに急激に減っているような状況ではありません。木古庭と上山口・下山口地区についても、木古庭・上山口は市街化調整区域で、下山口地区はエリアが広いけれども住宅の件数が少ないということで、割合としてはほぼ地域別人口のとおりのお返事をいただいたというふうに思っています。

委員 その次の問4のところ、「働いていません」という人数の比が出ているが、このあたりは県あるいは国全体と比べると葉山町の特長というのがあるものなのではないでしょうか。

事務局 多分、葉山町は就労機会に恵まれていない方が多いのではないかと思います。このところ、店舗が増えてきてパートの方とかは徐々に増えつつあるかと思いますが、他自治体

と同様、保育園の待機児童が存在しています。これはどちらが後か先かだと思いますが、1つは預けられる所があれば働くというような考え方もあります。アンケート結果では、お勤めをしていない方が4割を占め、就きたくても就けないという感じが見て取れると思います。

委員 やはりこれも町の実態と大体比例しているというふうに考えてよろしいということですか。

事務局 はい。

委員 問10や11のあたりで、「ご自宅の形態」あるいは「普段の車の運転状況」という話がありましたが、これは先ほどお話のあった3つの地区の環境、そこに住まわれている方の特性による違いはあったのでしょうか。もしその3つの地域に分けて出されているようなデータがあったら、教えていただければと思います。

事務局 町内6地区で持ち家一戸建ての割合がどうかというのは、今手元にありませんが、ただ、言えるのは、例えばマンションみたいな大きい建物は市街化区域の中のエリアにあり、先ほど申し上げた地区の割合の中で、木古庭・上山口の市街化調整区域よりも持ち家一戸建ての比率がこの部分では大きくなっていく、というふうには今は申し上げられません。

委員 今出していただいたデータは、現行の第三次総合計画のときの「将来土地構造の設定」ではゾーンを4つに分けてやっていると思いますが、現行の計画が順調にいったというふうな形で考えているということでしょうか。それとも、それとはまた違う方向に動いているということなのでしょうか。

事務局 土地利用の構想というのは、都市計画マスタープランで定めています。土地の利用はどうする、市街化をどうしようか、市街化調整区域をどういうふうに見直しをしようかということが書かれています。これは、平成9年3月にできて、土地利用の計画なので、この自治体でも一般的にその計画期間をかなり長く取ってまいりますが、最近は、社会経済情勢の変化が急速なので短めになっています。この都市計画マスタープランの中で、将来推計人口が36,000人になっていますが、そこと現行の総合計画との整合というのが取れていません。今の第三次総合計画で33,000人なのでちょうどいい数字で来ていますが、都市計画マスタープランとの乖離が出てきてしまっています。これは、市街化調整区域をどういうふうに見直しをしようか、市街化調整区域を市街化区域に編入してまいろうかというのは、町がそのように思っても、その権限が県にあるなど結構大きくて時間のかかる話になってきます。そうしたことから、先ほど申し上げたような、今ある平地の雰囲気や景観を壊さずに有効活用していくような方策からまず取り組むべき状況にあるのではないかと考えています。

委員 もう1つ伺います。ちょっと戻りますが、6番のところ「葉山町に住んで何年になりますか」という問いがあった後に、7番の方で「住む前はどちらにお住まいでしたか」という、2つがある形になっている。この2つを比較すると、問6で20年以上葉山に住んでいるとお答えになった54.2%の方の中で、ずっと葉山町に住んでいたのは18.1%。全体の半分以下の方であって、単純計算していいかは分かりませんが、54.2%から18.1%を引いたとすると、36%ぐらいは転入者だというような感じで見ていいということでしょう

か。大体の数字としてはそれで合っているということでしょうか。そうすると、おそらく、葉山の町には転入してくる人が非常に多いということで、他の町との比較をしながらこのアンケートに答えてくださっているのだらうな、というような見方をしてもいいというふうに考えてよいのでしょうか。

事務局 先ほど申し上げたとおり、平成 25 年の 7 月、8 月までは、他の自治体、例えば近隣の三浦市だとか、横須賀市がずっと人口が減っている中で、葉山は少し増えていました。それは、「葉山」というイメージが良かったりとか、交通不便はありながらもその不便が良くて、葉山のイメージに引かれて移り住んできている方々がいらっしゃいました。意外だったのが、ここ 4～5 年に葉山に移り住んできた方が町民ワーキンググループに結構積極的に参加していて、まちづくりに対する意識が高いというのがよく分かりました。比較的若い年齢の方々が葉山の方に移り住んできて今回のアンケートに回答いただいた状況というのがあるのではないのでしょうか。

委員 このデータをとっていただいたのは非常にいいのですが、例えば 14 ページに、「総合病院や大きな病院がない」「公共交通が利用しにくい」とか、そういう問題があります。われわれとして求めるのは、現実的にこういうものをつくってほしいと思っています。でも、経済問題とか、いろいろな問題があって、おそらくできない。だとしたら、今やっているかもしれませんが、小さな病院とタイアップしてそういうネットワークを築くとか、そういう形では解決できると思います。その辺には現実的にどういう問題があるのかは把握できるとは思いますが、大事なのをこれを具現化するためには何をしたらいいかということが分かれば、教えていただきたいと思っています。

会長 今の話は総合計画の中で課題として何を認識して、それに対して町がどういうことを計画期間内でやっていくかという話だと思います。だから、ここにいる委員としてはむしろ、町民のニーズとしてこういうものがあるけれども、これに対して町はどういう施策の柱を作っていくのかということがわれわれ委員の仕事で、それに対してどこまで埋めてこられるのか、その埋めてきたものが町民のニーズにうまく応えられているのか、ということをもう 1 回押し戻すのもわれわれの仕事だと思います。今回は今みたいにご質問いただいて結構ですが、まずは「総合計画は、町民のニーズに基づいて、町にどういう政策の柱で物事を考えていってもらおうのか」というところからスタートしたいと思います。もちろん、いろいろな場面でニーズが出ているので、今の質問には特別に可能な範囲でお答えいただければと思います。

事務局 一番上の「総合病院や大きい病院がない、遠い」というのは、町民ワーキンググループでもそういうご意見がたくさんありました。今さら総合病院の大きい箱物を作るという話ではなく、今ある逗葉地域医療センターだとか、医師会や歯科医師会等の既存の関係機関と連携しながらの、葉山町にあったようなソフト面の整備みたいなものが必要なのだと思います。また、「公共交通機関が利用しにくい」というのは、電車を通すというのは、夢の話であり、やはり、今ある唯一の公共交通機関である路線バスの本数を増やすとか、バス停の環境の向上を進めていくとか、海岸から山手のバス路線を通すべきだという意見が町民ワーキンググループで出ていました。これについては、私ども行政も京急の本社に

掛け合ったりして、日々そういう活動はしています。バス路線の充実というのが一番かなと思っております。そういうできる取り組みをしていくべきなのかなと、今はその程度のお答えしかできません。

会 長 今回のアンケートだけではなくいろいろなアンケートを見ると、公共交通機関をどうするか、その利便性をどうするかという話と医療機関については、さまざまところで町民のニーズとして出ているのは間違いがないと思います。われわれはそこを受けて、総合計画の中できちんと、とはいっても全部のことができるわけではないけれども、可能なことを積極的に検討してもらい、それを政策として張り付けてもらうような構えをつくっていかねばいけないのかなと思います。その部分でもまた後でご発言いただければと思います。

委 員 病院の話でいうと、私は総合病院を町内に建てることは不可能だと思っています。ペイできないと思ってます。厚労省がよく言うのは、まずセルフメディケーションで、それからかかりつけ医で、かかりつけの開業医から基幹病院への紹介、と。その辺のソフト面を充実していただけるような施策をどんどん打ち出していただければ、当然、医師会との連携であったりとか、そういった話になってくると思います。仮に 120 床とか 200 床とか、そういう病院ができたとしても、結局のところ、現状の診療の制度でいえば紹介状がないとすごく高いお金を取られるとか、そういう話になっているわけで、もちろん、大きな病院があるという安心感というのを切望されるお気持ちはすごく分かります。私も医療の現場にいたことがあるので、その立場から言うと、大きな病院を建てても、2時間待たされて診療時間は1分半とか、それよりも、開業医の肩を持つ気持ちはないですが、日頃から自分の体のこと、家族の体のことをよく分かっている開業医と付き合う方法を考えるというのも、1つの手ではないか、というふうには思います。先生方はたくさんいらっしゃると思うので、その辺も含めて、まさしくソフトの面でどう活用していただけるかというのを前面に出していただいた方が、大きな病院をドンと建てるというのは、私の考え及ぶ範囲で言えばとても不可能なことだと思っています。そこはぜひ、そういうソフト面の充実を加味していただくべきであり、政策を打ち出していただければと思います。

会 長 今のご意見もこの後のやりとりのときに役立てられればと思います。貴重なご意見でした。

委 員 自由回答の方で何人かの方がこちらの調査結果のフィードバックを求められていると思いますが、何か方法を考えていますか。

会 長 当然の話ですが、私に関わったこれまでの計画の策定のプロセスだと、冊子にするのはお金が掛かる話なので少なくとも町のホームページに掲載してほしいというお願いをしました。今回も適切な情報提供をお願いしたいと思います。

事務局 本審議会が終わった後に町のホームページにアップして全ての人にご覧いただけるようにします。

会 長 あと、最後に総合計画の冊子を作成すると思うが、そこはボリュームの問題があって、コストの問題にもなるけれども、例えば主要な意見で計画策定に大きく役立ったものを抜粋でもいいから少し載せていただく、なんていうのも方法かもしれないかなと思います。

みんなで議論していったプロセスの中で「今回の計画はどこに力を入れました」みたいに言えるものができたときには、ぜひそれを意識して、資料編でもいいので町民の皆さんの意見を載せることをするといいかないかなと思います。

委員 続けて提案しますが、フィードバックに関して、例えば1階のロビーのところに総合計画のコーナーみたいなものを設置して、今日いただいたこの結果の冊子を閲覧できるようにそこに置いておくとか、進捗状況のことを情報で提供するとか、そういうようなコーナーを設けたらいいのではないかなと思いましたがいかがでしょうか。

事務局 町の最上位計画なので、なるべくたくさんの人にご覧いただいて、なるべくたくさんの町の職員に関わってもらって作りたいなというふうに思っていますので、参考にさせていただきたいと思います。

会長 できるだけ、オープンにできればと思います。

委員 今、逗子市がごみの有料化のパブリックコメントを求めている、葉山町にとっては様子を見るのにちょうどいいタイミングなのかなと思います。私は個人的には、現状を見る限り、あるいは日本人の生活様式からいえば、ごみは有料化せざるを得ないと思っています。おそらく来年の6月から戸別回収ということですが、その中には一部有料化ということが視野に入っているのだと思います。生ごみの堆肥化ということを非常に推進されているけれども、生ごみの処理に一番お金が掛かっていて、生ごみを堆肥にしてくれることによってそれだけコストカットができてはいるはずで、だから、有料化や、色々な方策をとる中で、生ごみの堆肥化をしている家庭に何かしらのインセンティブ、メリットがあるような、一例を言うと、ごみの回収であったりとか処分については、有料化するけれども、生ごみを堆肥化している方には回収の袋であったりとか回収用のシールを無料でお渡しするとか、あるいは、資源化という部分で言えば、現状だとアルミ缶を出そうがペットボトルを出そうが、ただ同じように資源として集めていただいております、非常に感謝すべきことではあります。でも、現実論で言えば「ペットボトルというのは、最終的には再生原料として売却している。売却しているのだったら、持ち込みした場合は、無料にしてよ」とか。本当に細かい話ですが、産業廃棄物の世界では、企業が廃棄物を出すときには「排出事業者」という言い方をします。それと同じく、各個人、各家庭はある意味では家庭ごみの「排出事業者」たる存在になっています。であれば、何かしらの工夫をすることによってインセンティブを得ることがあって、結果的に、自身の個人負担も減るし、町にとっても良いと思います。当然、社会にとっても、燃やす必要がなければ何かしらのプラスになる。アメとムチではないが、努力してごみを出すことを減らした人には、何かしらのメリットがあるというような施策をぜひご検討いただければと思います。

会長 多分これは具体的な政策ベースでの町のご提案を期待するという意見なので、今の段階で答える話ではないと思う。検討する、という答えにしかならないと思う。ただ、多分環境の話も柱の中には入ってくると思いますので、そういう中で、今日委員からお話があったことをどんなふうを受け止めて政策化できるかという検討をぜひしていただければと思います。

議題(3)「町民ワーキンググループ活動報告書」及び「町民アンケート調査集計結果」から見える第四次葉山町総合計画におけるまちづくりの体系(方向性)について

「町民ワーキンググループ活動報告書」及び「町民アンケート調査集計結果」から見える第四次葉山町総合計画におけるまちづくりの体系(方向性)について、事務局より資料4に基づき説明が行われた。

(質疑応答)

委員 まず、2ページ目の方で出していただいた表の一番左側にある「キーワード」のところでお話で、「町民が生き生き」すれば「地域が生き生き」し「葉山が生き生き」というふうにお話しいただきましたが、今のお話を聞き、先ほどのアンケートの結果等を見ると、転入者が非常に多いということや、長いスパンにわたって住んでくださるとしても、葉山で生まれ育っていくというよりは途中からいらしているという方がいるということを見ると、葉山町に誘致したりあるいは葉山町に来てくれるという町外との関わりというのがこのキーワードの中にはないように感じました。一応、細かい文言の中では、下の方で「観光、観光客が立ち寄りしくみ」というようなフレーズでは出てきますが、観光だけではなくて、住民として住んでもらえるようなというようなニュアンスがどこかに入っていくという。誘致して来るということ、あと、葉山町の良さを発信していくということでは、町と外との関わりというものに関する観点というのがコメント、あるいは「キーワード」の中にあるといふのかなというのが関心としてありました。あと、最初の方で転出者のことなどを人数でお話ししてくださっていたときに、若者が出ていってしまうということに対しての対策というのは、ではこの中ならどこでそれを扱っているのだろうかということなどが見えるような内容になっていくといいと思いました。町の人口増あるいは現状維持ということ考えた場合には、それがどこでどういうふうに使われていくものなのかというのが、左側の「キーワード」の中ではつかみにくかったように感じました。

委員 今のご意見と若干かぶるところがあるというか、冒頭に、これからの人口の推移を、これから15年をかけて2,400人が減っていくだろう、そういうデータが出ているという話をされました。そういった状況下、人口が減っていくということを受け入れた上で、基本的な政策というのを作っていくのか、もしくはこれを受け入れずに自分たちは人口を増やしていく、もしくは維持していくという前提で政策を作るのかということで、細かい施策は大きく違ってくると思います。その点をどのように考えているのかなということに興味がありました。

事務局 推計のときにお話ししたとおり、多分、人口は黙っていても減っていく、町の高齢化率は29%に届くような状況もあり、減っていくのは仕方のないことだということはありません。人口が減ることは他の自治体もみんな一緒に、多分、これから先の自治体はある一定の運営をしていく上で人の取り合いになってくるというような話があります。ただ、人口は減るけれども、町民ワーキンググループのご意見にもあったように、今の3万3千人~4千人位がいいというお考えが多々ありました。これから維持していくためにどういう施策を打っていくかということだと思います。先ほど折れ線グラフでお話ししたように、例

例えば25歳から29歳の女性が転出してしまうというのは、子育ての環境それから教育施策とか、町に他の自治体にならぬ独自の学校形態があったりとかすれば、それは居留まる原因にもなるかと思えます。子どもを預けて働きに行ける環境がある程度整ってれば、それも一助になると思えます。あとは、例えば、35歳から39歳の働く方が葉山の良さを求めて葉山に転入してきたけれども、交通アクセスが悪くて、都心まで通うのに非常に不便である、と。例えば、ご自宅で仕事ができる環境が全て整ってれば、そういう側面も考えていかなければいけないと思えます。一方で、唯一の公共交通機関であるバスの運営は私たちのハンドリングでできることではないけれども、路線バス会社といろいろなところで提携しながら、よりスムーズに、待ち時間がなく、渋滞・混雑がなく、バスで最寄りの鉄道の駅まで行ける環境を整えるとか、そういうところを政策的にいろいろと紐付けていった上で3万3千人ないし3万4千人を確保していくという必要はあると思えます。ただ、医療や介護そういう分野が現制度そのままですら捉えていった場合に、これから社会保障費がどれほど膨らんでいくのかということも一方で考えていかなければなりません。町を運営していく上で必要なお金が何十億必要で、それを税収として得るために何万人規模の町でないといけないんだ、というのがどんどん苦しくなってくると思えます。その辺を総体的に考えなければいけないのだから、多分この政策を打ったから、確実にこれだけの税収があがっていく、という見立てを立てるのは非常に難しいことです。少なからず、今の人口ベースを維持していく策をこういう形で打っていく、そこに向けて努力していく、そのための計画である、というような形になっていくのではないかなと考えます。

委員 今手元にいただいたプリントの1枚目だと、協働に関する取り組みを強調しているように見えます。ただ、協働によるまちづくりについては、アンケートの結果では、実際にやっているのは4割弱で、どの年代を見ても半分以上の人が参加していないあるいはしないと答えているという現状をどのようにしていくのかというところがあると思えます。町外に勤務しているという、そこを変えるのはなかなか難しいというところも現状だと思えます。具体的には、どんなことが、どんなふうに、というあたりを考えていくのかどうでしょうか。

事務局 「葉山町地域福祉計画」というのが平成25年3月にできていますが、この策定過程において、実施したアンケート結果においても同じようなボランティアに対する設問がありました。その中でも、「きっかけがない」と答えている方がいらした。例えば、ある程度時間的に余裕がある高齢者の方もそうだと思いますが、まだまだお元気だけれども、自分の活躍する場がどこにあるのかというのが分からないという。多分、それは行政の責任が非常に大きくて、発信がうまくないというようなところがあります。今までの第三次の総合計画の中で協働は推進していくという文言はあるが、それを具体的にどういうふうに発展させるかということはまったく書いていないような状況です。「第四次の総合計画」ではそれが現計画よりも色濃く出てくるというのは、職員全体が感じていることだと思います。例えば、葉山町が平成27年1月に町制90周年を迎えますが、そこで現在葉山の90周年記念誌を作成しています。町長としては、高校生の授業の副読本になるような、中学生でも読んで分かるような、目で見て学ぶような90周年記念誌をイメージしています。

何分、私たちには知識がありません。「葉山まちづくり協会」というところに「葉山郷土史研究会」という活動団体があり、日々そういう活動をされています。今までの葉山の歴史をひもといた書物も第10集まで出しています。そういう知識を持っている方々をお願いして、私たちの方でも行政の方の分野の整理をして、一緒になって本を作っていくという取り組みをしております。27年1月には出来上がる。それも1つの協働だと思います。いろいろな部分で、そういう協働というのをどういうふうに進めていこうかと。非常に難しいことだと感じております。お金がなくなったから、一方的に町から地域に下ろしているのではないかととられてしまいがちですが、まずモデルになるような事業から進めてもいいと思います。地域の取り組み、それから防災とか防犯の観点で「パトロールは、やってもいいよ」とか、それから「病中病後の子どもの面倒ぐらいいは、町内会・自治会でも見てもいいんだよ」というようなお声をいただいたりしています。けれども、それをうまくつなげていくコーディネート能力や情報発信力というのが非常に欠けているというふうには思っています。行政に預けられた課題かと思えます。

会 長 町民ワーキンググループの第1回会議においてお話ししましたが、何でもかんでも行政がやる時代ではないわけですから、「できるところは、みんなでやろうよ」ということを前提にしながら、「町は最低限どこまでフォローしなければいけないのか」みたいなところで考えるのだらうなという気がします。実際にやるのは大変でしょうけれども、例えば公共交通機関の話を一ひとつとつても、場合によっては、町の社会福祉協議会が送迎のボランティアを組織化して、通院ぐらいいであれば送迎のボランティアさんが足になっていただいて、ガソリン代プラスアルファぐらいいは本人に負担していただいて。保険料は、ボランティア保険で、パブリックのところでは何とかするみたいなことを考えるのだからだと思えます。その類のことまでやればいいいけれども、いきなりは無理だとしても、そういう方向で皆さんが少しずつ努力するような形をつくれれば、町はもっと良くなるのではないかとこの気がします。

委 員 資料4の2ページ中の「将来像キーワード」のところの一番下「葉山が生き生き」、「自律」という「律」とともに「立」という関係もあり得るのかなという気がしました。なぜかという、「自律」だけだと律する方が主とした感じになってくるのではないかと。というよりも、自分たち自身が立ち上がっていく、つくり上げていく、そういうものがこの「協働」の中に入ってきているのではないだらうかという気がします。そういう点で、これからの葉山の中でも、財政的にも非常に厳しくなっている中で、町民が自分たち自身で律するとともに立ち上がっていくという意味合いの部分があっいいのではないかとこの思います。

会 長 実際に計画にすることは、「律」ではなくて「立」で、例えば「人・地域が自ら地域課題に取り組んでいるまち」ぐらいいの表現の方が町民の皆さんには抵抗感がないのだらうと思えます。そういう理解でいいのではないだらうか。

委 員 はい。

委 員 地域のボランティアというか福祉の件ですが、私も色々やっています。今、私は一色に住んでいて、ご存じかもしれないが、堀内地区で「お助け隊」というボランティアがあり、

買い物代行とか、大体草刈りが多いけれども、そういうことでかなりうまくいっている部分もある。中にはうまくいっていない部分もあり、今は玉石混交みたいな形になっています。ただ、やることについては非常にいいことをやっているの、反省しながらやればうまくいくかなと思っています。ただ、地域性があります。今、私は一色で同じようなことをやっていますが、一色ではあまり掘り起こしということはやりたくない、と。基本的には、手を挙げた人に対して助け舟を出すという形です。堀内や木古庭は、戸別訪問をして、困った人がいたら強制的に行く。料金が比較的高い。われわれにはそれはできない、と。そんなボランティアは、初めはいいけれどもなかなか長続きしません。ボランティアというのは非常に格好がいいけれども、現実にとると非常に難しい面があります。

会 長 ニーズを持っている人を探して手を伸ばすのは、福祉関係の用語では「アウトリーチ」と言いますが、ボランティアさんがそこまでやるのはなかなか大変です。民生委員さんとか、「おせっかいをしてもいいよ」ということでお墨付きが出ている人がやる分には、「まあそれはそうだよな」という話になります。そこは、ボランティアの皆さんと、仕事とは言わないが福祉的な関係で一定の役割を持っている人との、連携プレーみたいな中で対応されるといいのかなと思います。

委 員 今回の総合計画の策定の中では「協働」というのがキーワードのような気がします。2ページ目の「実現するための手段」のところではいろいろな施策が並んでいますが、「協働」が一番下にあるだけです。この「実現するための手段」を実行する中では全ての場面で「協働」という視点が必ず必要で、いろいろな手段が個別に考えられて、実際に取り組みされている事業もあつたりすると思います。ですので、各手段を検討する上で「協働」という視点も必ず必要だという書き込みもあつた方がいいのかなと思います。

会 長 とてもいい話だと思います。町の中で政策をどういうふうに組み立てていくのかというときに、今のご発言を踏まえていただけるといいと思います。「協働」というと、多くのところが、NPOのグループ等に何かを頼むとか、さっきお話があつた一色のそういう取り組みをやっている人たちに何かを頼みたい話になってしまっていますが、実はそうではなくて、役割分担も含めて町は、ここをきちんとやる、住民の皆さんには、ここをきちんとやってほしい、ということが計画の中で示せることも「協働」だと思います。短絡的に「NPOを活用します」みたいなところへいかに、役割分担をきちんとすることも含めて意識していただけると、とてもいいのではないかと思います。

委 員 アンケートの中で「仕事があるため、時間がない」と書いていた人たちも参加できるような活動があるのではないかと思います。今の会長のお話のような形で総合的な参画の内容があるというのもひとつの観点としてあるのかな、というふうに感じました。

会 長 今日はフリーに意見を言っていて、次回のときにこれを少し加工して、みたいな話になるのかなと思います。そのときに、可能な範囲で意識していただければと思います。言っておかないと、後で見直しをするときに作業ができなくなってしまうと思うので、ひとつだけ。1枚目が「ひとづくり」「暮らしづくり」「まちづくり」という3つで分けていて、2枚目が「町民が生き生き」「地域が生き生き」「葉山が生き生き」というふうに分けています。1枚目と2枚目を比べると、多分、「まちづくりの視点」というのは「葉山が

生き生き」と「地域が生き生き」の両方にかかるぐらいの話で、「暮らしづくり」は「町民が生き生き」にかなりかぶってくるのかな、「ひとづくり」「暮らしづくり」が「地域が生き生き」に入ってくるのかなと、言葉のイメージだが、そんなふうに見ていました。そんなことを考えながら3枚目へいくと、「暮らしづくり」「まちづくり」「ひとづくり」で、最後に「行政運営・経営」とあります。多分、4番目は、先ほども説明があったけれども、上の3つを実現していく中でベースになるプラットフォームみたいな話だろうというふうに理解しました。なので、計画そのもので町民にとってとても大事なものは上の3つなのだろうと。そのときに、2枚目の「キーワード」と「手段」と「政策分野」の関係と3枚目の「暮らしづくり」「まちづくり」「ひとづくり」とをもう少し行ったり来たりさせた方がいかなというのが感想です。

委員 今回のアンケートでどちらかという記述式の中でちょっと感じたことを述べます。私も含めて、これは戒めていかなくてはいけないなという文言があったので、部長にちょっとお願いして、職員の方へ働きかけをしていってもらえればなという点をお話したいと思います。役場の職員の方の接遇の問題がかなり取り上げられていたかなという感じがします。要するに、町民への対応の仕方というものがかなり問題視されている部分があるだろうと思っています。接遇に対してはかつてかなり取り組んだ時期もあったかと思いますが、今またこういうときに出てきているというのは、やはり戒めていかなくてはいけないのではないかなと思いました。ぜひ職員への働きかけをしていただければと思います。それは個々の行政の部分にもなっていこうだろうと思っているので、そういう点でよろしく願いできればと思っています。

事務局 このアンケート結果を読ませていただく中では、接遇に関してはお褒めの言葉をいただいている部分もありますが、なかなか厳しいご指摘もあろうかと思っています。今までかなり厳しめのご指摘をいただく部分とお褒めの言葉をいただいている部分はあります。これに関しては、総務、人事の方で接遇委員会を立ち上げ、どうしたらいいかというところで、受付とか整理整頓も含めて、今までいろいろ検討した結果はあります。接遇は役場の基本だということを認識しているので、このアンケート結果を踏まえて、今後引き続き提案等話し合いをして参りたいと思っています。

会長 他の自治体の総合計画を見ていると、今のような話を計画に意識的に書き込むというのはほとんどないと思います。逆に言えば、葉山町は町役場として、町民サービスに当たってこういうことに留意する、こういう努力をする、みたいな質的な部分、具体的に、研修をやる、みたいな話までは書き込まなくてもいいかもしれないと思います。少なくとも、こういう方向で、みんなで努力する、みたいなことは書いてもいいかなという気がします。つまり、町民の町職員に対する期待に対して応えようとする姿勢は書いていただいてもいいかなと、具体的に事業として例えば、こういう研修を何回する、みたいな話まで書くのではなくても、町民への対応について、気持ちよくサービスが利用できるような、こういう方向で努力する、という意思表示でも書いていただくと、随分違った計画になってくるのではないかと思います。

その他

総合計画策定までのスケジュール(修正案)について、事務局より資料 3 に基づき説明が行われた。

第三次総合計画の振り返りと第四次の計画策定に向けた町内の検討体制について、事務局より参考資料に基づき説明が行われた。

(報告事項)

事務局 報告が 1 件あります。総合計画は町民の方にとって非常に関心の高いものだと思いますが、それで、先般、ある団体から総合計画策定に当たっての要望書を、本審議会の会長、それから葉山町長宛てに頂戴しました。これについては、会長にも目を通していただいてご意見をいただいたところであります。その内容は、第三次総合計画後期基本構想の実施計画を検証し計画どおりに進んだものまたは計画どおりにいかなかったものなどについて、その理由を追及して、人口・財政・社会情勢の変動、政策の変更等により従前の計画を変更すべきものなどをなるべく数値化して明示しておくことが必要だ、というようなご意見でした。これについては、全職員で第三次総合計画の振り返りを行い、その成果・課題を把握して次に進めていきます。それから、他市でやっているような、歳入・歳出の見通しについて、具体的な事業費・人件費・諸経費の数値の記載をしてほしいというような話がありました。これについても、今後策定していく実施計画、皆さんにご議論いただくのは基本構想、基本計画ですが、その下にひも付いていく実施計画レベルには、主要事業の事業費を記載していくつもりであります。それと町の中長期的な財政計画との連動を図っていくというふうに考えています。3 つ目に、予算の記載と目標数値、数値化をしてほしいというような意見がありました。これについては、2 番目の要望とも関連しますが、事業費を含め記載に取り組んでいく、同時に進行管理・評価のできる計画作りをしていく予定であるというような形で考えています。まさに今、総合計画を策定するにあたり、取り組もうとしていることに対する要望と捉えて、先日、ご説明させていただいたということをご報告させていただきます。

閉会

会 長 進行上、余分に時間をかけてしまい、当初予定よりも 30 分以上超過してしまったことをお詫びしたいと思います。次回は先ほど話があったように 3 月ということなので、早めに日程調整していただいて、ご参加いただければと思います。

以上